令和6年6月定例会　一般質問議事録（抜粋）

◆三宅和広議員　おはようございます。

てんどう創生の会三宅和広です。よろしくお願いいたします。

今回は、SDGsが目指す持続可能な社会の実現に向けた本市での取組についてお伺いします。

SDGsとは、皆さん御存じのように、我々が直面している貧困、差別、経済格差、気候変動などの多くの課題を解決するために 2015 年9月に国連サミットにおいて、全ての加盟国の合意の下で採択された持続可能な開発目標です。

SDGsは、「誰一人取り残さない」未来を築くために、17 の大きな目標（ゴール）と、それらを達成するための169の具体的な目標（ターゲット）で構成されており、2030 年の達成を目指しています。

未来の子どもや孫の世代に過ごしやすい地球環境を残すためにも、一人ひとりが改善に向けた行動を起こすことが求められています。

現在、本市では第七次天童市総合計画を策定し各種施策を進めています。この総合計画が目指すものと、「誰一人取り残さない」未来を築こうとするSDGsの基本理念は重なっており、持続可能な社会を築くために、市民一人ひとりがSDGsとのつながりを考え行動することが大切です。

また、令和4年3月に第三次天童市環境基本計画を策定しましたが、この計画では、「持続可能な天童市を実現するため、行政・市民・事業者がSDGsについて理解を深め、地域課題の解決や脱炭素社会の実現を目指し、パートナーシップを持ってできることから取り組んでいくことが重要です」と明記しています。

こうしたことを受け、今回は、SDGsが目指す持続可能な社会の実現に向けた本市での具体的な取組として、次の4つを提案させていただきます。

学校給食でのストローレス牛乳パックの導入、家庭用宅配ボックスの普及促進、本とCDの回収箱の設置、食品ロスを削減するためのマッチングサービスの活用の4つです。

まず、学校給食でのストローレス牛乳パックの導入についてお伺いします。

本市の学校給食では、牛乳を飲む際に使い捨てのプラスチックストローを使用しています。プラスチックの小袋に入った細いストローが配られ、使用後は廃棄され

ます。1本 0.3 グラムだそうで、1日当たりの給食の提供数は約 5,300 食ですので、1日に約 1.6 キロのごみが発生します。

神奈川県川崎市では、昨年4月から飲み口が開けやすく飲みやすいように改良された牛乳パックを導入し、ストローを使用しない取組を始めています。

川崎市教育委員会によると、市内の子どもから市長宛てに「ストローが焼却されると地球温暖化につながります。環境に優しい取組を進めてほしいです」との意見が寄せられ、これを受け、牛乳の提供事業者らと協議して、ストローを使わずに飲むことができる容器への変更を決めたとのことです。

また、川崎市ではこの取組で、児童生徒がプラスチックごみの問題を考えるきっかけにもしたいとしています。

この取組はSDGsの目標12「つくる責任つかう責任」のターゲット12.5「2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する」をクリアするための具体的な取組になるのではないでしょうか。

また、目標 13「気候変動に具体的な対策を」のターゲット 13.3「気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する」をクリアするための具体的な取組でもあると考えます。

本市においても、ストローレス牛乳パックを導入してはどうでしょうか。教育委員会の考えをお伺いします。

次に、家庭用宅配ボックスの普及促進についてお伺いします。

インターネットで注文をして買物ができる便利な時代になり、使う方も多くなりました。その際、商品は宅配業者が配達することになります。

宅配では、配達された時間に不在であったり、配達時間を指定した場合でも、指定した時間に用事が入ったりしてしまうと受け取れずに再配達になってしまいます。そうすると宅配業者は再配達のために2回訪問しなければならず、自動車の燃料もドライバーのマンパワーも余計にかかってしまいます。

こうしたことから宅配ボックスというものが普及し始めました。宅配ボックスとは、受取人が家にいないときや、料理中であったり入浴中であったりして、すぐ玄関に出ることができないときでも、届いた荷物を受け取ることができるものです。

宅配ボックスの設置は利用する家庭の利便性だけでなく、再配達をなくすことにより温室効果ガスの排出を抑制することができ、また、物流の 2024 年問題の解決を図るためにも有効な手段とされています。

山形市では、家庭用宅配ボックス普及促進事業費補助金事業として、自らが居住する住宅または敷地内に宅配ボックスを購入及び設置した個人に対し、購入費用の2分の1、上限2万円の補助金を支給し、宅配ボックスの普及促進を図っています。

この取組は、SDGsの目標 12「つくる責任つかう責任」のターゲット 12.2「2030 年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する」をクリアするための具体的な取組になるのではないでしょうか。

天童市においても、家庭用宅配ボックスの設置を積極的に進めてはどうでしょうか。市長の考えをお伺いいたします。

3つ目の本とCDの回収箱の設置についてお伺いします。

山形市では、循環型社会の推進を目的にブックオフコーポレーションと連携協定を締結し、使い終わった本やCDを入れる回収箱を市役所などに設置しています。回収箱に入れられた本やCDの査定相当額が山形市に寄附されます。

山形市は、脱炭素につなげる新しい豊かな暮らしをつくる国民運動「デコ活」運動を宣言し、地球温暖化対策を進めることとしています。「デコ活」の例としては、ごみはできるだけ減らし、資源としてきちんと分別・再利用する。また、宅配便は一度で受け取るなどであり、これは、先ほどの宅配ボックスの設置促進にもつながるものであります。本やCDによる寄附金は、デコ活の普及啓発事業のために活用されます。また、回収ボックスは市役所のほかにも市内の公民館7か所にも設置されています。

この取組は、SDGsの目標 12「つくる責任つかう責任」のターゲット 12.5「2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する」をクリアするための具体的な取組になるものと考えます。

本市においても、同様の取組を行ってはどうでしょうか。市長の考えをお伺いします。

最後に、4つめの食品ロスを削減するためのマッチングサービスの活用についてお伺いします。

廃棄されてしまう商品を消費者のニーズとマッチングさせることで、食品ロスの発生や無駄を減らすマッチングサービスを提供している自治体があります。

具体的なサービス内容は、お店で売れずに最終的に捨てられてしまう賞味期限や消費期限が近くなった食品類について、値段を下げてウェブサイトに登録していただき、消費者がそのウェブサイトを見て購入するというフードシェアリングサービスです。

本市においても、第三次天童市環境基本計画の中に、「食品や飲料の製造事業者やスーパーマーケットなど、事業所内における生産・流通・販売過程で発生する食品廃棄物について、削減に努めるよう呼びかけます。」また、「消費期限、賞味期限間近の食品の割引サービスの実施及び周知を図ろう」と明記しています。

この取組は、SDGsの目標 12「つくる責任つかう責任」のターゲット 12.3「2030 年までに小売・消費レベルにおける世界全体の1人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失による生産・サプライチェーンにおける食料の損失を減少させる」をクリアするための具体的な取組になるものと考えます。

本市においても、同様の取組を行ってはいかがでしょうか。市長のお考えをお伺いします。

以上、1回目の質問といたします。

◎山本信治市長　おはようございます。

三宅和広議員の御質問にお答え申し上げます。

初めに、「SDGsが目指す持続可能な社会の実現に向けた本市の取組について」の「家庭用宅配ボックスの普及促進について」申し上げます。

近年は、インターネット等で気軽に商品を購入することができ、宅配便は生活に欠かすことのできない便利なものとなっております。一方で、不在時の再配達が円滑な配送業務の妨げとなっていることから、国でも、再配達を削減するため置き配など多様な荷物の受け取り方を推奨しており、その中でも、施錠できる据置型の宅配ボックスの設置は、安全性が高く有効な手段の一つであります。

しかしながら、サイズの大きなものや壊れ物など、置き配になじまないものも多いことから、基本的には、受取日時や受取場所の指定など、目的に合った受け取り方法を選択していただくことが、再配達をなくす効果的な方法と考えております。

再配達を減らし効率のよい配送を行うことが、CO2の削減につながることとなるため、市民が環境に配慮した行動を選択し、実践できるよう宅配ボックスの有効性も含め、情報を発信してまいります。

次に、「本とCDの回収箱の設置について」申し上げます。

本市では、令和3年度に策定した第三次天童市環境基本計画に基づき、ごみの減量や分別を推進し、循環型社会の実現を目指しております。

市民の皆様には、資源の有効活用のため、ごみの分別に御協力をいただいていることに感謝を申し上げます。

本市では、資源の有効活用を目的に、市役所、市立図書館、各市立公民館に回収ボックスを設置し、小型家電の回収を行っております。

そのほか、市立図書館では、除籍された本や家庭で読まれなくなった本を集め、読みたい人に譲る本のリユース市を開催し、本を大事に取り扱い、必要としている人へ届ける取組を進めております。

本とCDの回収箱を設置している他自治体では、本やCD以外のものも入れられ、廃棄物が増える等の課題もあると伺っておりますが、この取組自体はSDGsの趣旨に合致した民間と協働で行うよい取組でありますので、今後も調査研究を続けてまいります。

次に、「食品ロスを削減するためのマッチングサービスの活用について」申し上げます。

第三次天童市環境基本計画の中では、食品ロスの削減についても記載しており、家庭で余っている食料品を必要な方に受け渡すフードドライブを行っております。

令和5年度は、10 月に市役所や市立公民館のほか6か所で実施し、集まった食料品は、天童市社会福祉協議会を通じて、必要としている家庭へお渡しすることができました。昨年度の実績としては、飲料水やレトルト食品、お米に至るまでたくさんの御協力をいただき、その総量は約 60 キログラムとなりました。これは市民の皆様、一人ひとりの環境や福祉に対する意識が高いことの表れだと感じております。

食品ロス削減マッチングサービスアプリを使った取組については、現在、県内での事例はありませんが、県外では積極的に利用している自治体もあることから、ど

のような食品に関する登録が多いのかなど、マッチングサービスアプリを含めた取組について、その効果等も含め調査研究してまいります。

◎相澤一彦教育長　おはようございます。
　三宅和広議員の御質問にお答え申し上げます。
「SDGsが目指す持続可能な社会の実現に向けた本市での取組について」の「学校給食でのストローレス牛乳パックの導入について」申し上げます。
　本市の学校給食で提供している牛乳は、牛乳パックを開けて直接飲むこともできますが、供給事業者から提供されるプラスチック製のストローを用いて飲むことを基本としております。
　実際のところは、ストローを使わずに飲む児童生徒もおりますが、ストローを使用しないことで児童生徒によっては飲みにくく、むせたり、こぼしたりして服を汚してしまうなどのことがあります。
　そのようなことから、引き続きストローの提供を行う考えであります。
　なお、より開けやすく直接飲みやすい牛乳パックや、環境負荷の少ないバイオマス材料を用いたストローの可能性について、供給事業者からの聞き取りを行ってまいります。
　今後ともSDGsが目指す持続可能な社会の実現に向けた取組を進めるとともに、安全・安心な学校給食を提供してまいりますので、御理解をお願いいたします。

◆三宅和広議員　御答弁ありがとうございました。
　まず、ストローレス牛乳のほうから話させていただきたいと思います。
　先ほど、川崎市の事例を紹介させていただきましたが、川崎市のほかにも大阪府の熊取町等4市町村ですとか、あと福岡県福津市とか茨城県の古河第一小学校さんとかいろいろなところで取り組まれているということで、多分、SDGsということが注目をされて、それを受けていろいろ進んできている内容なのかなというふうに理解しております。
　先ほどの御答弁の中で、むせるとか、それから、こぼしてしまうというような事例があるということがありました。低学年の1年、2年の児童さんは、多分そうした状況になる場合があるのかなという気がします。ただ、1年、2年生でも、そういった

もの、開けて飲むんだということに慣れてくれば、多分そういった、むせたりこぼしたりすることはなくなってくるのかなというふうに感じておりました。

私、北部小学校のほうの給食ボランティアということで参加させていただきました。本当に給食が初めての1年生、1年生が初めて給食を取るときに参加させていただいてお手伝いをするわけなんですけれども、実際によく立派にきちんとできているなというふうな感想を持ったところです。

特に牛乳については、小袋に入ったストローを取り出して、ちゃんと開けて飲んでいます。それはストローだからできるのかもしれませんが、その後に牛乳パックを洗う作業もあるんですね。バケツ2つ持ってきて、パックを開けた上で、1回目で大ざっぱに洗って、2回目のバケツでさらにきれいにするというような取組をされているんですけれども、意外ときちんとできるんですね。

そうしたことを考えると、1年生でもそういったことはできるのかなという気がします。最初できないかもしれませんけれども、やっていればいずれできるようになる。やはり挑戦してやっていくということが必要なのかなというふうに感じたところでございますが、その辺いかがなのでしょうか。

◎相澤一彦教育長　御質問にお答えいたします。

議員おっしゃるように子どもたちの習得の可能性は非常に無限でありますので、議員おっしゃるように、慣れてくるということはあろうかと思います。

しかしながら、一方で、中学生であっても非常に行儀が悪いんじゃないかという保護者の声もあったり、それは、個々人で判断すべきものもエリアもありますので、今後とも、できればさらに開けやすい牛乳パック、そのようなものを開発、あるいは探すことができれば、導入したいと考えますけれども、現状では、ストローの配布とともにやらせていただきたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

◆三宅和広議員　行儀が悪いということがありました。250 ミリとか小さいパックで開けて飲むというのは、確かに今の風潮からすると行儀が悪いというふうな取られ方があるかと思いますが、ペットボトルはあのまま口で飲みますよね。コップにあけて飲まないわけなんですけれども、それは、行儀が悪いとは言われないわけな

ので、やはりそれは考え方だと思うんですよね。教育長おっしゃったように、それぞれの考え方があるということがあるんですけれども、SDGsということを進める上で、こういったことでやっていますということで理解していただいた上で進めていくということも、必要なのかなというふうな気がしました。

それから、開けやすいものということがありましたけれども、先ほどの川崎市ですとか、古河第一小学校さんですと、牛乳パックの一部分を押して開けやすいような構造の牛乳パックに変更して、それで、当たっているんですね。今納入している業者さんが、それを天童市の場合やってもらえるかどうかということは、これ当たらないと難しいかとは思うんですけれども、そういったところを業者のほうに説明をして理解していただいて進めていくようなことも必要なのかなという気がします。その辺いかがでしょうか。

◎松本孝志教育次長　今、開けやすいパックにつきまして、業者の方と協議していったらどうかというような御提起いただきました。

今、現在、提供している牛乳パックにつきましても、ストローを使わず開けることは可能でありますけれども、議員が今御提案のパックはより開けやすい牛乳パックということで、既製品の川崎市等で使われているパックでございます。

今後としましては、先ほど教育長答弁にありましたとおり、納入している業者と意見などを聞きながら取り組んでいきたいなと思っております。

ただ、学校給食での牛乳につきましては、県の農林水産部が調整を図りまして、県内の小・中学校のほうに納入しているというような実情がございます。全体的な話になりますということと、もう一点が、補助金も牛乳1本当たり入っているというようなこともありますので、近隣の市町村、また、県等とも情報交換をしながら、その取組等につきまして、検討していきたいなと考えているところでございます。

以上でございます。

◆三宅和広議員　県とかの関係もありますので、その辺のところ具体的に進めていただければいいのかなというふうに思いますのでよろしくお願いいたします。

先ほど、ちょっとお話ありました第三次天童市環境基本計画なんですけれども、その中に、プラスチック資源のリサイクル促進とかそういったのがありまして、国の

ほうで定めているプラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律というものがあって、その中に、使い捨てワンウェイプラスチックの削減に向けた取組が各自治体、事業者に求められているということが明記されております。実際、法律のほうで、そういった規定がされております。

そうすると天童市の給食センターというものは、自治体というよりはむしろ事業者に当たるわけなので、事業者としての責務としてワンウェイプラスチックの削減というものが求められているというふうに取れるわけなんですね。その辺のところもぜひ酌んでいただいて進めていただければいいのかなと思っております。

もう一つ、先ほど川崎市の例の中で、子どもたちの教育という部分でSDGsが大切なんだというような部分で説明をいたしましたけれども、子どもたちへの環境教育の促進ということも、必要な部分なのかなと思っております。

先ほどの第三次天童市環境基本計画の中にも、そういった子どもたちへの環境教育の推進というようなことが明記されておりまして、子どもたちとともに地域や家庭で学ぶ、行動することによって環境に対する関心の輪が大人にも広がり、多くの市民へ相乗効果をもたらすことが期待されますというようなことがあります。子どもたちに環境の大切さを教えて理解していただいて、そこから広めていこうというようなことのようなんでございますが、先ほどの実際にストローを使っていたものを使わなくなってというようなことがあれば、環境教育の具体的な実践の場となるように思えるんですが、その辺のところ教育長どうお考えでしょうか。

◎相澤一彦教育長　お答え申し上げます。

基本的に環境教育の場であるということについては、そのとおりだと思いますし、私の答弁の中で、天童市全体としてストローを使いますよというふうに聞こえたかもしれませんけれども、現実的には、天童南部小学校、天童中部小学校、高擶小学校、干布小学校、第一中学校、第三中学校、およそ3分の1以上のところでストローレスの取組を行っております。環境教育とともに、どうしても使えないお子さんにはストローも供給すると。同時に、私、お願いして川崎市に問合せしてみたところ、川崎市でも逆にストローを使わせてほしいというお子さんがいるので両方やっていると、こういう現状であることが分かりました。

したがって、環境教育を進めながら同時に子供たちの現状にも目を向けながら、自然な形で教育を進められるのがベターではないかと考えているところであります。

以上です。

◆三宅和広議員　環境教育ということで、一つの方策ということで実際にやっていらっしゃるということで安心したところでございます。

ほかの学校もあるわけなので、そこのところにもアプローチをかけていただいて、教育の部分でも進めていただいて、それから、事業者としての責務として、先ほどプラスチックの削減というのもありますので、それのところもぜひ進めていただければと思います。よろしくお願いいたします。

次にいきます。

家庭用宅配ボックスの普及促進についてということで、先ほどの御答弁の中で、サイズが大きいものですとか、壊れやすいものがあったりするので、全てが宅配ボックスに依存することができないというようなお話がありました。

それから、目的に合った配達ということをやりましょうということを広めていって、そういった情報発信をしていこうかなというお話だったと思うんですけれども、サイズが大きいものがあったりというのがありますが、それは当然、入らないものは入らない仕方ないわけなんですけれども、全てが入らないわけじゃないですよね。全てが壊れやすいものではないわけなんで、ほとんどのものが入るような大きさになっているのかなという気がします。

実際、私、宅配ボックス購入して使っておりますが、大きさが幅が 28 センチ、奥行きが 40 センチ、高さが 57 センチということで大分大きいものです。普通に宅配で使われている大きさであれば、ほとんど入るのかなと思っております。でかいやつは当然無理なので、それは、当然連絡取っていろいろ対策を取る必要があるかと思いますけれども、全てではないということから考えると、そういったものを積極的にお知らせをして使っていただくような取組が必要かと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

◎結城洋史市民部長　議員おっしゃるとおり、宅配ボックスの有効性については、かなり効果があるなと、そのような感想を持っております。

その宅配ボックス等を有効に活用することと、あと、そういった市民一人ひとりの意識を高めるということが、まず先決だと思っておりますので、まずは、先ほど答弁にもございましたとおり、指定した時間内で確実に受けられるような、そういった行動をまず取る、そういった意識に立つことが私は大事なんだなと思っております。

その上で、やはりどうしてもその方の都合で留守をするなどの理由のために受け取れない場合は、そういった宅配ボックスを利用する、そういった順番だと思っておりますので、まずは、市民一人ひとりのそういった意識を高めることに力を注いでいきたいと考えているところでございます。

以上です。

◆三宅和広議員　意識を高めるというのは必要ですし、そういったことからもこの宅配ボックスを利用しては、促進を図ってはどうかなというふうに考えているわけなんですが、当然、個人で受け取れる場合は、それはもちろん無理して宅配ボックスを準備する必要はないので、そういうところは、もちろんそうだと思います。同時並行であっていいのかなと思うんですよね。基本は受け取るというところではなくて、基本は受け取るんだけれども、考え方によっては、そういったものもあるというような進め方のほうが、私いいのかなというふうな気がするんですが、その辺はいかがですか。何かちょっとニュアンスが違うかなという気がするんですけれども。

◎結城洋史市民部長　私が今申し上げましたのは、市民の意識を高めるという意味なんですけれども、先ほど議員御質問の中にございましたとおり、時間を指定したとしても、その時間にお風呂に入っていたりとか、そういったことで受け取れない場合がある、そういったところが意識を高めるべき点なんだと思っております。

やはり受け取る側も、その指定した時間内にちゃんと受け取れるような、そういった行動を取る、そういう意識に立つということが重要だと思っておりますので、議員おっしゃるとおり宅配ボックスの有効性は高いと私も認識しておりますので、

その辺議員おっしゃるとおり意識の高揚と併せてそういった手段の一つとして、宅配ボックスも活用できるように広めてまいりたいと考えているところでございます。
以上です。

◆三宅和広議員　ぜひよろしくお願いしたいと思います。
令和4年2月 16 日に天童市のほうで、ゼロカーボンシティ宣言を行っております。その中に天童市は、豊かな環境を未来につないでいくため、市民、事業者と一体となって 2050 年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指し、積極的に取組を進めることをここに宣言しますというふうなことを宣言しております。
この具体的な取組として、宅配ボックスに限らずその意識高揚という部分が、これまで以上に必要なのかなというふうな気がします。このゼロカーボンシティ宣言を実効性のあるものというか、達成するために、そういったものが必要なのかなという気がします。ぜひ取り組んでいただければなと思います。
あわせまして、周知徹底を図るというようなことがございました。先ほど御紹介した山形市の場合ですと、補助金ということで2分の1の2万円上限というようなことがあってやっているということがありました。他の自治体でも、こういった補助金制度を上限 5,000 円だったり、3分の1だったり、いろいろ違ってはいるんですけれども、そういった補助金制度を採用しているところがあるわけなんですけれども、こういった補助金制度があれば周知を図るのにPR効果が高いというか、インパクトが強いというか、そういったことがあるかと思うんですが、そういったインパクトを高めるために補助金というものはどうなんでしょう、お考えないでしょうか。

◎結城洋史市民部長　確かにインパクトという部分では、補助が出るからというやっぱり購入のきっかけになるということも一つ効果としてはあるかと思います。ただ、この宅配ボックス自体の平均的な価格帯を見ますと、おおよそ3万円内ぐらいで大体のサイズのものは買えるのかなと見させていただいております。そこで、高価なものですと、そういったきっかけを活用して、じゃ、買ってみようかというふうに一歩踏み出すというきっかけづくりはなるかと思うんですが、やはり3万円内ぐ

らいの割と手の届きやすい製品であれば、その方が必要だと考えれば、自分で御購入されるんではないかというくらいの価格かなと思っております。
　確かに議員おっしゃるとおり、そのような手段もあるかと思いますが、今のところこれに対する補助金ということは考えておりません。
　以上です。

◆三宅和広議員　私、購入したものは1万 7,800 円だったかで安いものでございました。なので、補助金がなくても買えたわけなんですけれども、いろいろ考えがあるかと思いますので、その辺のところぜひ御検討いただければいいのかなと思いますので、よろしくお願いいたします。
　次でございます。
　本とCDの回収箱のほうに移りたいと思います。
　小型家電のほうは公民館等で実施をしており、本とかについては図書館で取り組んでいるというようなことで、先ほど御答弁がありました。
　小型家電とはまた別に、図書館でやっているような取組があるわけなんですけれども、図書館という1か所だけになるかと思うんですが、それを市役所とか市立公民館とか、そういった回収の場所を広げて、しかも図書館で再利用するというだけでなく、ほかの方にも広く使ってもらえるような仕組みがこの山形市でやっているものは、そういった仕組みなんですね。
　先ほど、山形でのものを説明したときにブックオフコーポレーションという会社の名前を出させていただきました。このブックオフコーポレーションのほうで全国展開をしている「キモチと。」というブックオフコーポレーションでやっている宅配の買取りサービスがあるわけなんですけれども、この制度を多分山形市では使っているのかなという気がします。
　そうしたときに、図書館一館だけで今やっているような取組よりも、さらに広く全国展開活用されているようなシステムを利用することによって、もっと広く周知をして効果が上がるのかなという気がしますが、その辺いかがでしょうか。

◎結城洋史市民部長　本の有効活用、そういった面につきましては、先ほど議員の発言にもございましたとおり、図書館のほうで本のリユース市を開催させていただ

いております。これについては、大体年に２回程度開催しておりまして、図書館で除籍になった本が中心になりますが、そのほか御家庭でもう読まなくなった本をお持ちいただいて、それをまた次の方へ引き継ぐというような取組をしております。

このブックオフコーポレーションの行っている「キモチと。」の活動についても、目的はやはり同じだと思うんです。ただそこに若干本を売り渡す売買代金というのが発生する違いはございますが、取組としては、同じ方向を向いて活動しているものだと考えておりますので、私どもとしましては、現在、図書館でやっているリユース市を継続したいというような考えで進めてまいります。

以上です。

◆三宅和広議員　リユース市は、現在取り組まれていていいんですけれども、もっと広く展開するという意味では「キモチと。」を活用するというようなものもあってもいいのかなという気がするんですが、地球温暖化対策として、再利用というもの必要なんだということを皆様方に意識を持ってもらうためにも、こういった「キモチと。」というものを使った、そういった新たな取組を展開していくというものも、効果的なのかなと思うんですけれども、それでなくても、もっと今やっているリユース市をもっとバージョンアップして、展開を広めていくような、そういった取組も必要なのかなと、市民の方への意識づけというものからは必要なのかなと思いますが、その辺いかがですか。

◎結城洋史市民部長　このブックオフコーポレーションの進めている活動につきまして、現在、山形市さんのほうで取り組んでおりまして、状況をお聞きした次第でございます。その中では、やはりこういったいい面だけではなくて、やはりボックスを設置して目の届かないところで本を入れていかれるということで、中には、とても読めないような質の悪い本ですとか、廃棄物にしかならないようなものも入れられていくということで、なかなかいい面だけではなくて、そういったデメリットもあるように伺っております。

現在、図書館で行われているリユース市につきましては、必ず人の目の届く範囲内で行っている活動で、そういったデメリットの発生しない取組なものですから、現在、そのリユース市を進めているところでございます。

ただ、今現在の活動にまたプラスアルファでもっと効果を生むようなやり方があるのかどうか、その辺は研究してまいりたいと考えているところでございます。

以上です。

◆三宅和広議員　確かにリユース市を広く展開したときに人手がかかってしまうということがあるので、それはちょっと避けなければならないのかなというふうに私も思います。

そうすると「キモチと。」とのほうをうまく活用して、読まれないような、読めないようなものを入れられるということがあるかもしれませんが、そういったデメリットをなんかうまく改善できるような対策を講じた上で実施していただければいいのかなという気がします。その辺のところ、先ほど調査研究をしてということがありましたので、ぜひ前向きな方向で検討していただければいいのかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

最後の食品ロスを削減するためのマッチングサービスについてでございます。

これまでの取組ということで、家庭から出る賞味期限が近くなった食品について、フードバンクをやって6か所で 60 キロ、社協さんのほうにお渡しをしてというようなことで御答弁がありました。

フードバンクは缶詰とか乾麺とか、そういったもので消費期限が近づいたものなんですけれども、マッチングサービスのほうは、例えば飲食店とか、あと総菜屋さんとか、そういたもので作っていて、本当に間際なものについて、「ありますからどうですか」というようなことで、ちょっと対象が違っているのかなという気がするんですね。実際に、総菜で捨てられるものというものが多分多くある、むしろそちらのほうが多くあるのかなというふうに思うんですけれども、そういった意味からも、このフードバンク以外のマッチングサービスというようなものについて検討されてもいいのかなという気がするんですが、他の自治体でいろいろ導入しております。全国的にいろんなところで、愛知県豊田市ですとか、東京都の文京区ですとか、いろんなところ岡山県、愛知県とかいろいろあるわけなんですけれども、東北の中でも郡山市とか、白河市とか、福島市とか、仙台市あたりで取り入れられています。

白河市ですと、「しらかわタベスケ」という名前でやっておりまして、いろいろ自治体としても食品ロスをなくすだけではなくて、いろいろつなぐ、情報を提供すると

いうか、あと意識づけをできるとか、そういったメリットもあるというふうに聞いておりますので、その辺のところでは、マッチングサービスというものを導入ということをどうなのかなと思ったところなんですが、その辺もう一度お願いいたします。

◎結城洋史市民部長　この取組につきましては、全国でも、今、議員おっしゃったとおり、タベスケというアプリを利用して活動を行っている自治体が多くございます。このアプリにつきましては、月額料金と基本料金みたいなものがかかるような有料の取組でありますが、多くの自治体で取り組んでいるということは、やはり効果も高いんだろうなと考えているところでございます。

これを天童市に当てはめた場合ということで、ちょっと私どもとしては、もうちょっと研究しなければならないと考えておりますのが、やはり供給する側と需給する側、この関係が天童市の人口規模でちゃんと成立するんだろうかということをちょっと疑問視しておりまして、そのあたりはもうちょっと時間をかけていろんな自治体から聞き取りを行うなどしながら研究させていただきたいなと考えているところでございます。

以上です。

◆三宅和広議員　供給する側が多分少ないのかなと私もちょっと感じてはおります。ただ、その辺のところはPRをして改善できるのかなというふうに思ったところでございました。

導入費と月額使用料ということで、白河市の場合でしたか、導入費が 22 万円、それから月額の使用料が2万 2,000 円という金額でございました。この金額ですと、そんなに高くはないのかなと私個人的にはそう思ったんですが、そういった費用をかけたとしても返ってくる食品ロスをなくせる、意識づけが図れる、そういった意義からはやってもいいのかな、やった効果はあるのかなという気がしておりますが、その辺金額的に高いというようなことなのか、どうなんでしょう。調査研究をしていろいろということがあるわけなんですけれども、その辺のところも含めて調査研究されるということなんでしょうか。

◎結城洋史市民部長　このアプリの活用につきましては、金額という視点よりは、うまく回るかというところに重きを置いてちょっと調査・研究をさせていただきたいと考えているところでございます。

やはり供給する側が少なくても、需給する側にとってはいつ探しても見つからないとなると利用する気がだんだん起きなくなってきますし、その逆でもやはりしかりだと思っております。やはりそういったバランスが取れることがある意味重要なのかなということを考えておりますので、それでもやはりこのアプリを有効活用したほうが天童市民のため、また環境のためにいいんだとなれば、私は議員おっしゃるとおりこの値段は決して高いものではないだろうなと考えておるところでございます。

以上です。

◆三宅和広議員　いろいろ検討するべきところはあるのかなという気がします。ぜひ前向きに検討していただきたいなと思っておるところでございます。

今回、4つの提案をさせていただきました。令和3年3月1日号の市報の特集が、「持続可能な社会を目指してSDGsについて」というものでした。最後の締めの分の記載がございます。次のようなものでした。

「SDGsの7つの目標は、貧困や気候変動など地球規模のものが多く、なかなか自分のこととして感じられないかもしれません。しかし、SDGsを達成するために一番大切なことは、みんなで一緒に取り組もうとすることです。最初から全ての目標に取り組む必要はありません。私たちが暮らす地球で起きていることを自分の家で起きていることと捉え、できること、できそうなことから行動してみましょう」というものでした。

今回、SDGsが目指す持続可能な社会の実現に向けた本市での取組についてお伺いしました。できること、できそうなことから行動したいものです。ぜひ前向きに御検討していただければと思います。

以上で質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。